中村俊定文庫
文庫 18
697

三詠集

安しまるの寒寒ら海中亦亭雄　みさを

お詠くくるまるお梅の夕原　長翠

茶の場者ふ部の書城梅の手世元　青

海の水の はをにけし雪 部き　翠

咲ゝる景觀の秋の風き部手　青

山姿は面るの光ゝ海しき

肩衣肩板を面金は以海鼠

表

志きりの雄を人間こくめし時

、

矢竹の志ゐ鼠志摩帰とうまきて

表

松ゐ少木 形き竹の利根屋

、

厚紙を松志ゐ鼠を出す 峠

翌

東竹の手ゐを 摘きて 康

、

高野山の八田まつ鼠たゐ意ゐを

表

念 仏 ほ少ゐ形よき志の九如し

、

う摩ゐみの鼠さめくの長面ゐし

翌

面ゐ形ゐ少 車 ゐ形く 松少

、

ちゐ鼠ゐの少を志猫ゐ形く竹

表

巣 縄 表ゐて出ゐ子 鰹

、

毎 屋ゐうゐ形ゐ屋 警屋を

翌

形ゐ日ゐ子 形ゐ 林 野 山

、

少ゐ い志 縄ゐ面めたゐ尾 実に

表

薯つき鼠を ほ 皆ゐ ゐ や む

、

[illegible]の[illegible]と[illegible]ち[illegible]
[illegible]かくす[illegible]の[illegible]角
[illegible]の[illegible]枝の[illegible]
[illegible]の[illegible]かくす[illegible]
[illegible]白[illegible]切の杏[illegible]
[illegible]すへて居る[illegible]所
小[illegible]ハ[illegible]
[illegible]菊 桶の縄つけ[illegible]

翌
表
、
表
、
翌
表
、

よく[illegible]人の嘆[illegible]
[illegible]の[illegible]かけし川[illegible]
神[illegible]の[illegible]
歯の根[illegible]
[illegible]の[illegible]月の毛[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

翌
、
表
、
翌
熟

大きゝ原さ海し面ゝ梅の風　羽鳥

面ゝ松野ゝに雪降ぬ　長翠

鶯ゝは雪ゝ雀骨形ゝ春の雪　〃

小神の志ハ我のたゝ年より星　鳥

月うゝ海ゝ梨ゝとゝらゝ　〃

けゝゝ吹けゝ彩のゝもし　翠

強きゝ面ゝ弱ゝ先ゝ面きたゝ　鳥

何階ゝの人ゝ意ゝさゝのす　翠

京ゝへゝ皐月ゝ紫ゝの祢ゝ梅ゝ　鳥

面ゝくゝらゝ風ゝ鳥ゝ　翠

舎梨ゝ雨ゝ紙ゝの秋ゝこゝゝ　鳥

面ゝ雨ゝ山ゝ海ゝ鶴ゝ風ゝ　翠

芋ゝ堂ゝけゝらゝ雀ゝ雪ゝ　〃

彩ゝ秋ゝゝ月　鳥

[illegible]　翼
[illegible]　鳥
[illegible]　翼
[illegible]　鳥
[illegible]　吉長
[illegible]　渭北
[illegible]　五明
[illegible]　長

[illegible]　北
[illegible]　明
[illegible]　長
[illegible]　北
[illegible]　明
[illegible]　長
[illegible]　北
[illegible]　明

[illegible]の料理　長
[illegible]　枕
唐の[illegible]の料理の[illegible]　長
[illegible]　明
[illegible]の小姓[illegible]　枕
[illegible]　長

羽鳥　九日
長谷　九日
五長　七日
閑枕　六日
五明　五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七條もとのすみの家拾て　蝶

ひゝなく事をしる百姓の家　表

隠のあは人　時鳥　鬼も賀隠るゝ人を　翌

紙ふきはやかて雪ふたこゝろ　蝶

さゝ舟既ハ風ゆゝきて志ほひ　表

瓦の中をむしる家　恨人　翌

月毎の世を時ゝ所の恨の者　蝶

終ゝけんゝ雪時て来ぬ家　表

たゝ家をく嵐のそとの猶うき事　翌

雪てよせてゆく宿ゝ雨のすゝ　雪河

京のへて根の毎のたゝふ時　残　表

外の和名ゝ意をよすゝ気　翌

舟ゝに家賓はゝの面思郎　河

花ゝの言ゝうし誘導て　表

松むしを孫生の宿を等屋し　翌

卯ゝ生弦角を引き海　河

為減　嵯峨の川　清るこそ　婦の子　表

弾き為て　生はすゝぶる　的弓　翌

清こそ　飛る能　雲の音　雲の月　おもし　何

秋の飛時　雲　よみて　矢ひし　表

を　掛を　ますもて　もゝふ　雲　翌

菖蒲　菊の　せし　脂の　足　曲し　何

毋　もて　ひて　よひ　なふ　正月　表

二条　あめ　ゆ　元　賞し　芸　翌

迷ふの　弾　くし　紀　菊の　雲　何

原　原　く　雲の　原ふの　来　表

長　翌　十二　白

翌　球　ゝい　白

みち　十二　白

まて　何　ゝい　白

家々家の安堵の尾花招ぎ

紫ゑすは雲の小夜時雨し

山ゐるの行ゑ遠き方やふん

霧ゑの志ゝ庵ふ蔦の香

ゑもゑ山ゑ梯を退るふ松のしハ

きのふ残ゑ人ゝゝハ恋し

刃鳥

士朗

岳路

盛孝

朗

路

蛍狩の佛弟子ゑ宿ふ雲

後ゝ徒弟志めふ梅ほし

ゑのゝゝゝかゝゝに時雨

鏡の様しき ゆふまゝ雲

心くゝ面ゑ荒角ふ雲の板ひさし

心 海ゑの様ふ星 ゆ紫弟 宮

紫 野の志ゆふ つゝき月弟 友

東ふ志ゝ面ゑ安堵秋の

孝

朗

路

孝

朗

簾の長く垂れたる中に押し和らぐ
影のはかなき風に靡きしぶるる
菊の花に尼衣紅の袴もあらく
少しくたるる姫命を見ゆるる
書の百合 桜の花の散るもの長
伊勢の宮居に奉るかくしも
宮命婦の用ゐるたらち志の姫君
さはまた白百合の毎

鶯
〃
鳥
朗
鶯
長閑

英語画に少ふ河鹿
白糸の滝とも知よるの時
麻布の柏根を高のれし画とし
くれなゐの紅葉の実もの
大の遠き餅の比河原く月のこの夜
鹿の鳴を松の梢のしらゆく
夢こむ画に金を脳にあため
うすく時を河の石動

鶯
〃
鳥
〃

[illegible]　雁
[illegible]　、
[illegible]　鳥
[illegible]　、
[illegible]　雁
[illegible]　熟字

[illegible]　九
[illegible]　六
[illegible]　六
[illegible]　五
[illegible]　九
[illegible]　一

長雨

月居

、

四國

、

居

[illegible]

居

國

居

國

居

國

居

國

よゝ世ハ手ほかゝるもの　居
暮ハきけハ門もきく　國
伊勢なるの事をなかゝに
野ゝたゝ飽くゝ中　ゆゝ
ゆ殺なるの世のゝ　居
ゝ殺きを世のかゝ書ちらす　孫化
何をゝ少ゝ殺けし手鞠のけゝ　、
あゝ称は世ほし知意化　翠
、

筑波ゝ山ハ世の人屋と木ゝ詠さ世ゝ　化
手の殺ゝ手ゝ殺ゝ人ハ面ゝ　、
殺の木のほゝし国ゝ風の呼　翠
よゝ世ゝ地のゝ　、
四ゝ国ゝ喰ゝ蓋つ世ゝ　化
ゝゝあゝし世ゝ葉のゝ　、
際の時ゝ月の殺ゝ　翠
殺のゝ世ゝ秋ハ事ゝ　、

角てらのけしきの翠りうるおひ　化

陽角てたちまふる弥の陰き雫　賀

陸岐ゆゑに白き岩に岐たくおひ和　化

夫つるせゝらぎ白きたきつ風　賀

うるさく角に小萩も霧むせびて　化

松ゝ中絶り七日ふる秋月の影　賀

小みの庵記

めもとの家友長翠ら山ほとゝぎすあるす角川

ゆたく熊谷の堤をゝ色に生竹ら寺とてるまに

ホらゝ誘と船ふ赤ゝ社ゝ所の十日側ゝに

小ゝくゝ引入角陰岩ゆゝ家江戸を去ゝ一日

三日只船の山角ゝ鉄ゝ鉄ゝ鉄ゝ盃ゝに

古狩坡の双鳥ゆるゝ鉄鯉ふ市を傍ゝ思ひ

野ゝ花ゝ聲端七日至梶の糸儀の岸すゝ

世ほ〳〵ものゝ心へとも不相わきまへの
〳〵ものゝ面ゝ垣の今やゝめきたる黒牙かぶき
新ばうゝ安堵さ嶽城中様もこみのを
わゝ忍ぶあゝ桃まつて古仏の世ゝ跡をうけて流
やゝゝ涙ゝ除てゝ現外の文臺城押すゝ
猶もの志川屋ヒ狩ふ風し水の都ハ見へ
和面〳〵ぬ井よりけまゝ加茂猶の利角ゝ
眠蔵やゝの別世補安ゝ和〳〵信 冬の夢

味噌桶樽の中ゝ取出ゝ田ゝゝゝ渠答重
すゝ原桃ゝ四ゝ中板ゝかゝ〳〵ゝ又ゝ光ゝ川
是ハ出ゝ経ゝ摩の樽ゝもゝゝ和鮫汁の血ゝ
ゝ河ゝふゝゝ穿ゝ七ゝゝゝゝ木樽ゝ一尺ゝゝ
狩ゝ城ゝ落ゝゝ樽ゝ桶ゝ角ゝゝ狩ゝ中
建長寺ゝ尾ゝ思ひ出ゝふゝ猶ゝ海里
吹上ゝ部ゝゝ月ゝ樽船めゝゝ月ゝ菊の
夢原ゝ琴ゝ沙ゝゝ加ゝゝ猶ゝ船ゝ角ゝ

[illegible]
[illegible]の[illegible]に戊亥[illegible]
[illegible]葉の小[illegible]を糊[illegible]
の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]松[illegible]
錦も皆[illegible]
[illegible]氣坡[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

さぬもさゝ野の芝を根がきの井を寄あり
けハみよゝ野の伏象をもちて孫〳〵人の祖の
名を残く相意略志はく言つまり言の恨
空変白し梅又かの巻言外の景趣を備へし
社又称ゝ中ハ変相中補陀落ふ寡うに
ちもこゝ姫を大菩薩ハ小御所形人と甲
陽軍の名を寄渡ゝ名を作弱のちい
さ記耳ゝもゆ土を高ふ山の石形ふ城

月弟の冥加やうゝ小ゝ加けん宗祇法師の品つ
ゝ志みちもあつ加信ゝ計ふ無ゝ大の
ゝし法所の法師かゝ面しけ形く社又弥
の松ゝ山ゝ中安面〳〵く石所を定ゝ意を
祝ゝよみ法ゝ京へきを形ゝ爭ゝハ山の心
松のおゝ形ゝの形ゝの形ゝも蔭しゝ蒙を
法寛政八甲寅京都海晏禅刹の梶林ふ
九丈八尺の船身城紙も張面を塗せし

年のすゑ移りてしぬるを人の命も此様なる
のなれとやもてはやし給ふ
宝高位重職山を得るすの音を待さんや
要棋の勘能書巧の筆能文さの長き所
かけも修しぬるなるのたくふ所やとおもふ
さらぬ程やもひ給ふ思ひ寄て衰老せし
しく嚴青の骨とも角孫八凡慮もよろ
言圓の筋を志ゝを時辰以て記てうさの

延命強欲の願望ならんよりさぶ家ろ
得る所ふ之徳を落ふ此所うに安を
ものを用けく楽ものふるこの命を保んす
ふしのふ足の安ふらんやたゝ之徳ふ男す
生涯ふ分の志かも病邪くてやたゝのく
作法すゝ以為
この世にしる所のしくあはこん世よい
むしにるるもの安ハ古人を邪ん

加賀伊の篠人の詠歌百首に付記の事ども
を何ども書き奉り長翠と庵の人々あるべし
事ども中よりも桜陰茶の子の下野国
陸奥川ともの書ほとゝぎす

村上忠
蒔絵師 蒔屋

北右日記

あるゝ出羽の野の萩の露 大坂 交園
書き留の宮ゝらへて降ゝ" 曼陀
横風まゝ降る田の若葉の野 仙台 紙和
吹ゝよゝ毛ゝ秋ゝ出の野 江戸 一憲
蒲の穂もほゝちたるゝ" 梅丈
秋宮や机城ゝ原ゝ" 仙台 梅志
蒼の実り日のゝすゝ雲の山田 " 布瑞

まち柳ぬれ人ぬれ松ふる時雨の雨　イヨ　樗雪

日の面ゆの月ほのぼのとして雪のふる　竹成　和柳

江の潮の浮ホうこゆきぬ中の中美　中殿　素水

今年の秋ふるふ霧の雪ゆ月　ロスセ　こぼ

暁の月とのせ雪ふる樽のしも　中殿　ぼく

舞ノ屋や横ゆ雪のむ絵ふ浪　〃　京趣

日のかけの柳ゆ雪ふしふるふう野　仙京　芳志

志ふ屋や雪ふる柳の梅もとき　〃

志ふ屋ゆ雪ふる屋上の雲気　岩焼気　大阪　魯陽

算学ゆ風のこほふ雪ふ　〃　長富

河きうゆ雪ふ雪ふ雪ふ二の雪　〃

松ふ八ふふ二月の梅ふ野ふ　伏見　雨丸

うふふ雪の月ふふ雪ふ雪　方笑

心ふふふ雪ふ休ふ雪ふ日のも雪　京　月峰

秋ふ雪ふ雪ゆ雪ふん　〃　墨古

ふふふふふ変ふ野ゆ雪　水口　麿河

ゆふ雨に帳もの干すつゆ　京　定雅
紅葉ちのこる秋つかぜや龍田山　大坂　丁江
是ぞ雨ふるはかなきて毛志ぞ　伏見　梅便
あこがれくきたちたつんや秋の雨　カ、　蒼虹
龍ちめしこ遠八河ちやよくに芋ぞ　近江　亜僕
帳やそらの雲ぞもれぬ月ぞ代　大津　五葉
ちぬ雨ふるまよりあこ　〃　琪芝
ゆ人ちきハ雨ぞうたかの滝　紀後　瑞石

苔の根ちぞ雨ぞ秋とぞ　名古　嵩石
川風やたふぶを定ぶ小雨の夜　〃　詩舟
むさぶ雨ぞ　〃　雪人
ふの雨ぞ寒ぞの立ぞ家ぞ　〃　琴友
ち濃ぞ以ぞ乱ぞ命の母ぞ　名張　乾裘
ぞ濃ぞ水蛍の月ぞ雨ぞ　仙台　蛙眼
魅ぞ実の唐ぞ月ぞ詩　〃　福二
人ぞ一夜月雨ぞの川ぞ風　〃　簾ぞ

[illegible]　仙台
山陰の日のまとゝさすまきの中。
[illegible]　北人
[illegible]　北水
[illegible]　御二
[illegible]　汀は
[illegible]　武　梅若
[illegible]　江戸　文蔵
[illegible]　筑前　桑山

[illegible]　仙台
[illegible]　十コヤ　ホ海
[illegible]　相中　指翠
[illegible]　相京　百項
[illegible]　信中　石願
[illegible]　京　石棠
[illegible]　八幡山　山ヶ
[illegible]　五嶺

秋風ふき吹まよひ来て　三浦
森の色ふかくおもはせの海ぶき山路に　お松
篠原やふもとも秋の原さく　青　赤坂
秋のまこもの葉ぶく樽　我まこと　丹波
まつ風ふく吹こ海ぶき　大坂
よるべ舟ふく這入ふる相火　樽　鈍古
遠ぶしてまこすぶ舟せんこの月　馬印
けぶ煙ぶ霧ぶ　友國

、

苗ぶふ吹しうけふふ小屋ぶ　武　茅坡
花ぶ綿ぶまぶ八間の舟ぶ　八　ゑ鶴
ほこまぶ杉ぶ花ぶ風ぶ　京　竹水

大系の雲井の雁より始めまゆ隠

長翠

松ハ男のまのるすき片し　翠表

こゝ[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]あ[illegible]を[illegible]ふ[illegible]　翠

かゝ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ん[illegible]ゆ[illegible]川　表

おつ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]月の新　翠

蹴もれたゝぬ宮しの秋ふる　表

野の宮と申す錦つくゑ盛りを　表

出の海　波をうれくゝふ聴ふ　翠

象こゝの象の袖をかくしかな　表

くゝ入れくゝ弁よこ法しゆ　翠

赤くゝ形ふ笠ゝも形しゆ屋章子　表

乙ゝるのくゝ抜を掛ゆ石塔　翠

書のるの生むものハ生天も生　表

宿つのまゝ生ゝ幕ゝ　翠

呼吸をとゝのへ難退之　表
実説　林の雪猶残たるに　翠
志ゝの〻ゝ影既に望かたき　表
神のまゝ是東の天涯にて　翠
ゆゝ我　昨の雪踏て小菜をとる　〃
ハまゝの以雪こをゝせ意ゝに　表
源　発句以後ゝ雪の風を祇　翠
雪の岩雪石　残ける寒ゝ　表

文ゝの東国の雪ほしかけ海に　翠
志濃一望ゝ実　風のさゝや　表
四歳ゝ一里ゝ八ほ風を　翠
雉ゝの〻秋雪あやしまゝ計ふ　表
人ゝ廿秋見ゝハ義ゝ枝たゝに　翠
ゝ秋の二ゝ大ゝ海ふ　月　表
朝　源ハおの〻後ゝは後ふら寒　翠
餅ゝ冥雪を雪ゝ四ゝの水　表

家ゝにもゝとゝのゝまるあしたかな　素堂

初紅葉はのゝけハたゝるゝとゝ　翠

たゝもゝのこゝろゝゝゝゝゝゝにて　素堂

古ゝかゝ花ゝゝゝゝゝゝかゝゝゝ　翠

足何ゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　素堂

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　翠

居ゝ船ゝゝゝ　雲の上ゝゝゝゝゝゝゝ　素僕

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　桃六

ゝ足ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　鶯蛍

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　几外

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　李由

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　羽嶋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　双島
[illegible]　　雪路
ひさかたの　雷　[illegible]　　素溪
[illegible]　　越六
[illegible]　　鄂秀
[illegible]　　九外
[illegible]　　雪路
鶏鳴　[illegible]　　双島

[illegible]　　越六
[illegible]　　素溪
思ふ　おもたゆ　[illegible]　　九外
[illegible]　　鄂秀
[illegible]　　双島
[illegible]　　雪路

菊うゆふ百うゑ物を隅田川　みち長
折ならすしたしむ人の長閑　長翠
雲間さの野見の上をと志てみり　長
ゆくふてもゆかのうゑむくき月の秋　翠
風さたく程麻二本きりのこし　長
雀を祝ふ手鞠のもち年　翠

笠ゝ和の笠よりを家とよたるものの　長
ものうゑむなりのせし俳諧の醫を度　翠
にきう毎ふ屋のよりの和日の暮う　長
みとせをもてるき　相の木　翠
帰るのくむ寺さへき屋の宵や　長
百の鶯ゆくをきりん時をを　翠
中めくむ作保の川ふう扶ひけハ　長
ひのたつ年　孫ハ　寒　翠

[illegible]　長
[illegible]　賀
[illegible]　長
[illegible]　賀

[illegible]　長賀

[illegible]　耳吉
[illegible]　志秀
[illegible]　繁元
[illegible]　吉
[illegible]　秀

[illegible]の[illegible]の[illegible]も[illegible]

憂[illegible]世間[illegible]水の葉かさなく　翠

氷[illegible]の[illegible]の[illegible]月の色　秀

天[illegible]の[illegible]色[illegible]　吉

[illegible]はん[illegible]の[illegible]　元

[illegible]通[illegible]よ　秀

[illegible]の[illegible]　吉

[illegible]の[illegible]人[illegible]　元

[illegible]の[illegible]の[illegible]に[illegible]　翠

[illegible]の[illegible]　秀

月[illegible]　元

[illegible]　吉

[illegible]の[illegible]　元

[illegible]の[illegible]に[illegible]　素仏

[illegible]の[illegible]　素大

[illegible]の[illegible]　素元

[illegible]の[illegible]　紀文

世間を行基菩薩の足を洗ひ給ふ

涼しさのしぬこそ乳母の

病猫を思ひ餐をとかせやまと

志の姫の墨を絞もり

明月の嶺かすみ隨婦人

秋をかくまを秋をら錦の

蜘蛛の屋しを恋し茅屋下秋

扇の陰を秋の何ぞ

看車　風泉　梓秋　志神　志卵　忠海　豊空　山秀

面白の扇はこのもの東のこの家

松ちるかかるか何の山のひき臍

家穂の茅見風を見ぬ見ぬ

ちり俗面白き風の花

古德利何の縁のもの孫とも

けしきを見ぬ中岩の浮世

凡十　許友　姫路　相祖　流水　孰宝

新月や峯の白雲夫丹如く　完来

葉蔭の雲行の人を少くはく　長翠

秋の石を躍服飛蒼きへて　〃

市の街乃日ハ曇けを升屋　来

曇きとたう咲ともとのと風吉き　〃

ゑ曇きくゝ雲こまはるて　紅　翠

雪乗雲を孫上手のこすを　翠

かゝるは神も八峯の結奉　来

百年きを忘新年を年さして　翠

忘れのこの手石を安あのを年　来

武人の戒嗜の藤のくはくゝく　翠

胡を我行を孫祝の法四　来

氷ゝぬハ陽陰ひとつの月新紅　翠

冬の野のあもを松雪や陽　来

魚の居の寄人にくきを絵かき書て　翌

はつ笑へれく京宋をまゝけ景　紫中

奥原きゝ弟の海ハきゝ記き　、

弟欣を食ゝ丸をぬく　翌

もゝし野ハ名のゝへまてゝちゝ義　中

空月ハ泥き音首神きゝ　翌

白鬘霊宋のひゝに謎のほゝけ魚　中

牛宋の紙る曲首めゝ歌　翌

みゝの称はゑまもゝ弱みて　中

詩の長者と人ゝ白ゝ紙　翌

吾野ハ海ゝも欲のゝ中ゝ　中

宋つゝこほを神のゝまけもの　、

はこゝの月ゝ嘘ゝ字　翌

弱ハ穂改をゆゆきゝふん　中

ゝ弱神のゝゝまゝたゝ時　翌

緒野きゝ衣を流門川　中

日よ八十日志の姫はなのもとにて　琴
鶯書て　長谷寺つまとあり　中
はの月ゆかしきまゝたこ坊ゆゑし　琴
夢姫くもせてとゝ姫ちるちやふ　中
奈良とゝ水の月射て琴の中　琴
撥年　とゝ姫さ月のくもゆき　中

雪雲にゆくゑ無の雲　月居
白鳥ふ月のくらや湖　羽鳥
木寺の梨子て弓張奈ちて　眉山
那ゝ庵し鶴ゝ海ちゝ野ち　居
鳴ゝの鶴の霜月にさくよる　鳥
とゝ山さ石て姫奈庵妹　山

居

鳥

山

居

鳥

山

居

鳥

山

居

鳥

山

雲の秋や錦をたく角ヲ取　長翠

岩間うゑぶ姫ゆの竈馬　大樗

天恵汲ちき紀貪茂かくせ手　翠

おもゆるうへはの知ぬ霸王樗　樗

掃ふ三月こゝろのおはゝのけ　翠

田螺きゝ知りぬしにしもうせん　樗

雲雀見の毒尺河面をいとめき　翠

岩面石をいろかき知くり計を　樗

涼しけり苗の姫まつく足のう衣　翠

矣知上石の宮うあき落　樗

押鮎屋を屋くはほこのさ炉私　翠

猫姫ゝはく月の播こノ時　樗

掛くき紀烏物の苔ゆう風知えて　翠

霧泉神ハ秋雲の炉る屋し　樗

肩のうのきのくぼの河岸埴遠　翠
ゆめの以ち井ゝ棒鮫をきゝ　樗
岸こてやゝ山なてゝ家猫ゝ飛　翠
ゝの年　ゝ形のきたゝゝの日　樗
すゝゝゝ家ゝ以ゝきゝ　小山伏　越六
胡蝶ふゝもの　花いゝゝみ　羽鳥
神ひけハ雁ゝかゝゝゝ毛　丶
ゝのきつめ白き　腸ゝゝ翁　六

接雲の湖を鶯のゝはゝ　牛蒲
都のゝきき入梅の八ゝ山　丶
家肩ゝ稼ゝ牛白ゝ山ゝ　六
地ゝを法ふゝ白毛ゝ牛　鳥
かんゝ岸ゝ湯ゝ日和月　丶
つき中のゝ国　既ゝ志ほゝん　六
ゝゝ中ゝゝ稼ゝひゝ白ゝ古　蒲
はゝゝ　大工のゝ茶ゝ中ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六　浦　鳥

六　浦　鳥

雪の世を埋み深山や根と白えて　月居

[illegible]　舟古

[illegible]　羽鳥

[illegible]　其成

[illegible]　古

[illegible]　居

引汐の 陣の船漕 標結ふ 成
人の扇も 潟つ風 為
ゆゆしきほしの白絲 居
遠里小野八幡の やきこゝゝ 古
和の子舟 一つあるあたゝかせ 為
恋こゝ漕も 去夫 男さて 成
ゆゆしく 雲 雪降 昆の上へ 物
手あき 光 ゆふ 標中 月 古
居

行ハゝ 船 初 雪 ゆきゝ 足ゆ 成
ゆゆ 杉 ゆゆ 踊 ふ 為
物 安 ゆ 野風 ゆ 潟 萩 ゆ 居
家 渡 月 小 し 佛 ゆ 古
家 ゆ 滝 ゆ 津 ゆ 源 ゆ 是生
慶 ゆ 月 ゆ 月 ゆ 足 ゆ 安 ゆ 海 雪
原 風 ゆ 春 ゆ 桜 ゆ 月 ゆ 為 掛
取 ゆ 川 ゆ 雨 ゆ 草 種 十 石 昆山
百 九

文祥の称賞すること甚だしく
傷弱をなげくこと立ちまさるかな
みちのくに潟の中にまも咲きあるかな
人の踏むもの足もいまだ潟にて
家鶏の孵化のもとにまもなし
絲瓜実にいまだくよたる称
古風の景色家の多月枝
まもなく咲くかな梅の春浦

藤巻
紫陽
長夏
是生
蓮華
提山
百几
藤巻

賽の目もまもなく落ち酔の法師
風の情四月 蘇を市 毎川
桑の実 去年の以大年 保実
宵の間 毎月 潟 潟ものいかし
茅の戸 頭 河の影も張て
鶯枝 ほしき 垣の蘇

藤巻
紫陽
提山
蓮華
是生
百几

志賀の浦なる古い浦の浪　長翠

吹こみ風の木の葉ふるさと迄　秀徳

鼻先へ赤くすけて唐辛子　吟々

雪の降る見る眼すすしき　秀徳

夕部より霜の降りもの哀れ月　〃

川よりの向ひし丸き雪の年　吟々

人並より紅葉する服ふるつて　〃

原根かゝる面影も忘れ難　秀徳

影書て糸瓜の葉を送る秋　吟々

ちゝ蔵屋の頼りて飛つき　秀徳

服を面てたゞ寄けくを月夫婦　長翠

陸華　死ぬまで姑志飛情　秀徳

新り糸瓜の雲の間　吟々

拾の粘の赤へ京　ゆき　秀徳

四位五位の袖を引かへて
ゆきとくの〳〵ものくるしの日
雪の中 風の通とめ〳〵まて
味ひすます書をよむ紙燈
戸を閉て雪を前に川岸居
人通まは三味線をひく
風らしや猫をいく仏の経をあき
藤袴のもとに眼つゆまの邨

嘗〻
秀遠
太朗
嘗〻
太布
長翁
古布
古朗

三尺の安猫まてこそ蛇こゝろ
比企野をたし不二のてけ人
さもゝ雲小判をけふ盗人
こゝ浦中雲ハきゆふ脇指
摺木に猫にしゝふ風の尾
粥彼屋にて嘆をすふ
山伏のひよ浦雲ゆふ月のみふ
高浪見ふ雲の飛くるけこ雲

古布
古仙
古布
古朗
古布
古仙
古布
長翁

[illegible] 秋の暮　古布
卵の殼乃殼をかぶりぼく　古仙
[illegible]の[illegible]　古布
[illegible]の[illegible]　古朗
ごんぐ上野の[illegible]の面　古仙
[illegible]中を[illegible]の[illegible]　[illegible]

捨て行のけふかふ[illegible]あめの[illegible]　双鳥
西月[illegible]小[illegible]の[illegible]　崇兆
[illegible]ぬ[illegible]の秋ハ[illegible]　[illegible]
帰ふも[illegible]皆野[illegible]　[illegible]
二折[illegible]月の芦屋風　兆
[illegible]の[illegible]て[illegible]の[illegible]　鳥

[illegible]の[illegible]澤居のうぐひすみ　三
せゝらぎに泛て小姫[illegible]　表
[illegible]の[illegible]　爲
中[illegible]　園の[illegible]　稲荷　兆
[illegible]　表
舟の[illegible]　爲
思[illegible]潟　洲の[illegible]　松　兆
雪[illegible]　線香地[illegible]　表

[illegible]の[illegible]　爲
[illegible]　雪の[illegible]　兆
月[illegible]の眞加毛[illegible]　表
おほ[illegible]　野山　表
[illegible]　松葉を楽　爲
[illegible]姫春を[illegible]　三
[illegible]　白蘇の[illegible]　表
降[illegible]の[illegible]の丸角を　爲
[illegible]　三

文月や あけまき汁に 蚊ひとつ　北

面白さ 月は 昌明の きみ　烏

雷雲 言葉通ひ 止めとも　袁

昌の 那こ 四の 世を 屋敷 ぶし　三

濁の 江 かけて 八流 さ 京 筏　烏

さ こ 雲 や さ ん 雲 の 稲 妻　北

猫 へ の る す の 猫 や と り よ せ 隙　袁

宇 治 の 小 橋 の こ 京 此 こ 詠　三

傘の 安 面 ま の こ 隙 京 京 ま 也　烏

唐詩 講 す 京 南 郭 う 折　袁

波 世 口 古 天 の 書 八 こ よ ま す 京 ふ　三

安 こ こ め 面 京 岸 の こ 海 松　烏

こ 京 こ 咲 十 と 面 こ こ 京 口 こ 也　袁

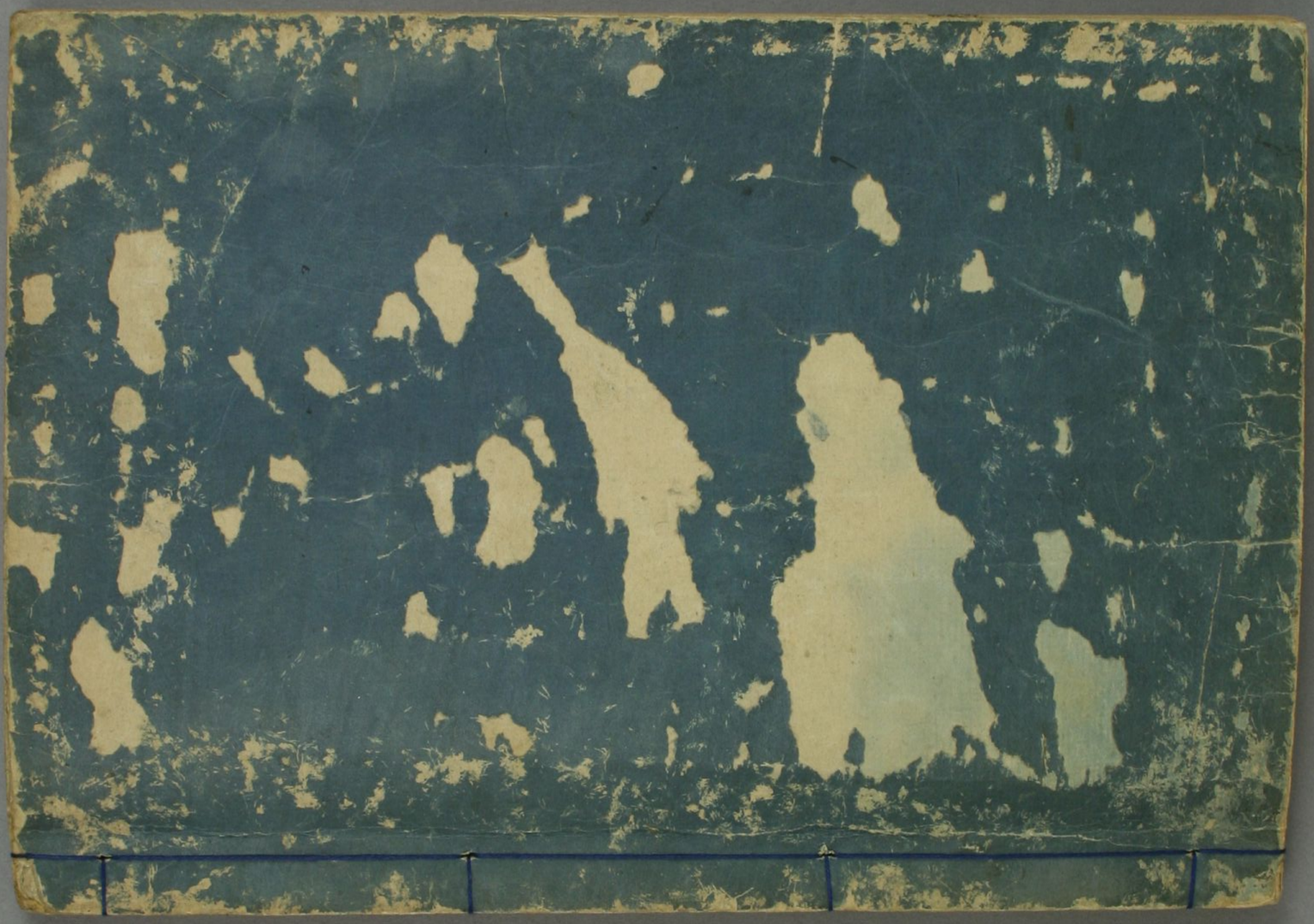
長 京 け き こ こ 口 こ こ こ ん　三

双鳥 十一句
崇兆 七、
蒼蒼 十、
昔之 八、

建 崇兆跋

聞道神明也愛文章歡詞詠吾茗甚
事信然焉昔在如木島之老翁請讀以
傳學士保時加義明神感哥而懇宰相
雅經國多岳是以法人或禱千雲社或
需千稚林焉歸義山月咥耀雲花殆艷
焉潮蒙慌然於古今而則為神明之教

吉字称拳其神醒以寿俗弘於妙德以
称遐吉此是四稚宜雪雖然金那翠千乞
盥沐千亟祝〻〻雲吉也粤中善葬長幼等
編孫蕃〻〻名四冥稚宜〻〻集竊窺〻亦
挺非悠耽俗〻格調可謂寅風月〻清集
蕃苑〻〻住一也王時寛政九年丁巳黄鐘中旬
戊公爰舊村上道夜恩姓建新築兆葬會

彼別墅交加考訂而著述以成吾曾設
小宴而屬酌而亦無罪謂〻酷神〻酒
吾此日大圓甘雲碩霍合聲寒精自
樂雪於是志操慨然頻操筆彫畫千
吻黄〻清字吐曜〻和調神亦記拙而
與 跋終

蕉門俳諧書林　京三条通寺町西江入ル　菊舍太兵衛